



9月号

# 学校だより

平成30年 8月 28日  
さいたま市立植竹小学校

〒331-0813 さいたま市北区植竹町2-1  
TEL 048-663-7627  
FAX 048-663-9885  
E-mail uetake-e@saitama-city.ed.jp

児童数 1年96名・2年124名・3年139名・4年115名・5年136名・6年125名・7組20名 計755名

学校教育目標 ○すすんでまなぶ子 ○たすけあう子 ○げんきな子

## 『青い目の人形』

校長 関根正佳

長い夏休みが終わり、元気な挨拶とともに子どもたちが学校に戻ってきました。暑い夏休み、保護者の皆様はお子さんの健康・安全管理に何かと気を使われたことと思います。また、保護者・地域の方々の御協力により大きな事件・事故もなく本日、始業式を迎えることができました。厚く御礼申し上げます。



8月に秩父に行く途中、和紙で有名な東秩父村にある「ふるさと文化伝習館」というところへ行ってきました。そこで常設展『青い目の人形「マーガレット・フォックス展」』を見学してきました。『青い目の人形』は、今から91年前（昭和2年）「世界の平和は子どもから」をスローガンのもと、アメリカの子どもたちから12,739体の人形が日本に贈られました。当時は、日米関係が悪化し、両国民の相互理解で関係を改善させようと、シドニー・ルイス・ギュリック博士が中心となって、日本へ人形を贈ろうという運動を展開しました。日本では渋沢栄一が政府に働きかけ受け入れる体制を整え、埼玉県には178体贈られ、パスポートを首にかけて海を渡ってきました。そのうちの1体がニューヨーク州グレン生まれのマーガレット・フォックスで、大河原尋常小学校（現東秩父村立槻川小学校）に贈られました。現在では『青い目の人形』と呼ばれていますが、贈られてきたときは「Friendship Doll」と呼ばれ、「友情人形」と訳されました。私たちが知っている、野口雨情が作詞した『青い目の人形』♪



青（青）い眼（目）をしたお人形は アメリカ生れのセルロイド（ト）・・・♪は人形が贈られてくる前に日本で流行っていたため、「友情人形」が『青い目の人形』と呼ばれるようになりました。実はこれらの人形に対して、「答礼人形」として、58体の立派な人形を日本からアメリカに昭和2年の11月に贈り交流を深めています。しかしながらこの178体の『青い目の人形』は、豊かな交流を果たしてくれたのにもかかわらず、不幸な戦時下をくぐりぬけ現在確認されているのは、12体だけとなってしまいました。（※東秩父村教育委員会の資料等参考にしました。）

展示されているマーガレット・フォックスを見ていると、時代の流れをじっと見守ってきた今日まで、その青い目で、何を見てきたのかと聞きたくなりました。何も話さない人形ですが、平和の大切さを語りかけているように思えました。

2学期も多くの行事が予定されています。日々の小さな取組、小さな経験が子どもたちの成長につながります。大きな行事だけではなく毎日の何気ない出来事や体験も大切にして、子どもたちの成長を支援していきます。そして、さらに自分のことも頑張り、友だちのことや学級、学校全体のことを考えて行動できるよう教職員一丸となり指導してまいります。